



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2014年11月発行(第55号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー(無料)

角笛HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

- ◎巻頭メッセージ:「箱舟を作る」 エレミヤ
- ◎証:「プロテスタントの教会やクリスチャンへの神さまからの御告げ」 E3
- ◎お知らせコーナー:「新刊本の紹介」「日曜礼拝のご案内」「第38回黙示録セミナー」

[巻頭メッセージ] 「箱舟を作る」 by エレミヤ

【聖書箇所】ヘブル人への手紙 11:7
11:7 信仰によって、ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。

本日は「箱舟を作る」としてノアに関する記述から学びたいと思います。上記ヘブル人への手紙の記者はノアに関する記述の中で、彼が「箱舟」を作ったことを特に記載し、このことに信仰のポイントがあることを語っています。このことの意味合いを考えてみたいのです。「箱舟」の意味合いは第一義的には、文字通りの箱形の船です。ノアはこの大きな木造の船を建造することにより、家族や動物の救いを達成したのです。

しかしこのことには、さらに隠れた意味合いがあるように思われます。なぜなら以下のことばのように、神はたとえや謎をもって語られるからです。

【聖書箇所】詩篇 78:2

78:2 私は、口を開いて、たとえ話を語り、昔からのなぞを物語ろう。

神はこのみことばで書かれているように、たとえや謎を通して語られる方なので、私たちはこのノアの話に関してもとたとえや謎を理解したいと願っているのです。

<箱舟の意味合い>

このヘブル書で特筆されている箱舟について考えてみましょう。この箱舟ということばは、ギリシャ語で、“kibotos”ということばが使われています。そして同じ“kibotos”は、じつは以下の箇所でも使われています。

【聖書箇所】ヘブル人への手紙 9:4

9:4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の箱があり、箱の中には、マナのはいった金のことば、芽を出したアロンの杖、契約の二つの板がありました。

同じ単語が、「契約の箱」を指す意味合いでも使われているのです。神が書かれた聖書のこと

「箱舟を作る」 by エレミヤ

ばに偶然はなく、逆に聖書は神の知恵や謎、たとえをもって書かれた書なので、このことばの一致には意味があるように思われます。

<ノアの日、終末の日に再現される>

さて、ノアの出来事は創世記に記された古い出来事なのですが、しかしこの日は、終末の日に再現することを主ご自身が語られています。以下の通りです。

[聖書箇所]マタイの福音書 24:37-39

24:37 人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようだからです。

24:38 洪水前の日々は、ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、飲んだり、食ったり、めとったり、とついでにしていた。

24:39 そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。

ここでは主ご自身が、

①主の再臨の日、すなわち終末の日はかつてのノアの日のようなものである。

②ノアの時代の人々は、洪水により全てがさらわれるまでわからなかった。同じようなことが、終末の日に再現するが誰も気付かない。

主はこのように終末の日は、ノアの日のようなこと、かつてのノアの日洪水と同じような事柄が再現することを語られたのです。私たちはこのことの意味合いを主にあって、理解したいと願うのです。さて、終末に関連してダニエル書にも、洪水が起きることが書かれています。以下の記述です。

[聖書箇所]ダニエル書 9:26

9:26 その六十二週の後、油そそがれた者は断たれ、彼には何も残らない。やがて来たるべき君主の民が町と聖所を破壊する。その終わりには洪水が起こり、その終わりまで戦いが続いて、荒廃が定められている。

ここでは明確に終わりの日に、「洪水が起こる」ことが明言されているのです。ですので終わりの日、終末の日はノアの日再現であり、そして洪水が起きることを聖書が語っていることを

理解しましょう。

<水の洪水は起きない>

洪水とは簡単に言えば、沢山の水が押し寄せることです。日本で2011.3.11に起きた大津波のように多くの水が押し寄せることです。ということは終わりの日に、かつてのノアの日のように、また世界中を水が覆う大洪水が再現するのでしょうか？しかし以下の虹の契約の記述を見るとそうも思えません。

[聖書箇所]創世記 9:13-15

9:13 わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。

9:14 わたしが地の上に雲を起すとき、虹が雲の中に現われる。

9:15 わたしは、わたしとあなたがたの間、およびすべて肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い出すから、大水は、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水とは決してならない。

ここで主は虹の契約を立て、再びノアの時のような水、H2Oの水による大洪水が地を滅ぼすことはないことを約束されたのです。そのようなわけで、文字通りの水、H2Oの水が終末の日に、再度全世界を滅ぼすということはないのでしょ

しかし、また反面、主が終末の日はノアの日であること、洪水が起きて多くの人々がさらわれることを語ったのも事実なのです。ここには矛盾があります。私たちはこれらの矛盾をどう理解すればよいのでしょうか？

<洪水の意味合い>

私はこう思っています。H2Oの水の大洪水が終末の日に再現することはないのでしょ。しかしノアの日の大洪水はたとえの意味合いで終末の日に再現する、そう理解することが正しいと思われるのです。

そのような視点で考える時、水は霊的なことをたとえるたとえです。たとえば、以下の記述を見てください。

「箱舟を作る」 by エレミヤ

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書 7:37-39

7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。

7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」

7:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ注がれていなかったからである。

ここでは聖霊が「**生ける水**」にたとえられています。ですから「**水**」は、霊的な事柄を指すたとえなのです。

さらに以下のようにも語られています。

〔聖書箇所〕Iヨハネの手紙 5:6-8

5:6 このイエス・キリストは、**水と血**とによって来られた方です。ただ**水**によってだけでなく、**水と血**とによって来られたのです。そして、**あかし**をする方は御霊です。御霊は真理だからです。

5:7 **あかし**するものが三つあります。

5:8 御霊と**水**と**血**です。この三つが一つとなります。

ここでは御霊と関連して、「**水と血**」が語られています。ですので、聖霊は、「**水と血**」にたとえられるお方なのです。ですから「**水**」は、霊的な事柄に関するたとえなのです。

＜終末の日は、悪霊の大洪水の時代である＞

ですのでこれらの考察を通して、ノアの日のとえの意味合いが理解できます。終末に来るノアの日、それは霊、具体的には「悪霊の大洪水の日」のとえなのです。終末の日に、悪霊の大洪水が来る？このような考えは受け入れられないかもしれません。しかし正しく聖書を読むなら、終末の日に背教の教会に悪霊の大洪水の日が到来することは聖書が預言していることなのです。たとえば以下のテサロニケ人への手紙です。

〔聖書箇所〕IIテサロニケ人への手紙 2:9-12

2:9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、

2:10 また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。

2:11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。

2:12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。

ここには終末の日に、背教の教会に対してサタンのあらゆる偽りの力、しるし、不思議が起きること、さらに神ご自身が惑わす力を送り込まれることが書かれています。すなわちその日、悪霊の大洪水が背教の教会で起きるのです。

さらにヨハネの黙示録にも、終末の日に底知れぬ所の御使い、すなわちサタンを王とおおぐ軍隊、すなわち悪霊の軍隊が教会を席卷することが描かれています。以下の通りです。



ノアの洪水は終末の日に再現する

「箱舟を作る」 by エレミヤ

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 9:1,2,11

9:1 第五の御使いがラツパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。

9:2 その星が、底知れぬ穴を開くと、穴から大きな炉の煙のような煙が立ち上り、太陽も空も、この穴の煙によって暗くなった。

9:11 彼らは、底知れぬ所の御使いを王にいただいている。彼の名はヘブル語でアパドンといい、ギリシヤ語でアポリュオンという。

黙示録の時代になると、底知れぬ穴が開き、悪霊のかしらが出てくるのがここには描かれているのです。

＜ノアの洪水の記述を見ていく＞

さて、このような視点で改めてノアの記述を見ていくときに、そこから教えられることがあります。以下、創世記の記述から見てみましょう。

〔聖書箇所〕創世記 6:13

6:13 そこで、神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。

ここでは、全ての「肉なるもの」の終わりが来ていることが語られています。同じように終末の悪霊の洪水の日は「肉なるもの」、すなわち肉なる歩みをするクリスチャンへの裁きの時と理解できます。彼らは悪霊の大洪水に巻き込まれていくでしょう。

〔聖書箇所〕創世記 7:15

7:15 こうして、いのちの息のあるすべての肉なるものが、二匹ずつ箱舟の中のノアのところにはいった。

ノアの箱舟に入り、洪水から免れるものに関して、「いのちの息のあるすべての肉なるもの」と記載されています。すなわち「いのちの息」、つまり聖霊を持っているか、聖霊の臨在と共に歩んでいるかどうか、そのクリスチャンが洪水で滅びるかどうかの境目になることが暗示されているのです。

〔聖書箇所〕創世記 7:19,20

7:19 水は、いよいよ地の上に増し加わり、天の下にあるどの高い山々も、すべてにおおわれた。

7:20 水は、その上さらに十五キュビト増し加わったので、山々はおおわれてしまった。

洪水の水が増し加わり、結果、どの高い山もみな覆われてしまったことが書かれています。

たとえの意味合いとしては、悪霊のリバイバルが全世界の教会を覆うことをあらわすと読み取れます。ですから、今起きつつあるおかしい霊のリバイバルは決してとどまることなく、いずれ全世界の教会を覆うようになるのでしょう。以下の黙示録の記述はその日を預言しているように思えます。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 13:16,17

13:16 また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。

13:17 また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。

「売り買い」は「贖い」（買い取るの意味）のたとえであり、ここでは「獣のしるし」、すなわち悪霊を受けている働き人以外は教会の奉仕に立てないことが、たとえで語られています。その結果、背教の教会で下される霊、受ける霊は、聖霊ならぬ悪霊となります。そしてこのことは、先ほどの「全ての山々が(悪霊の洪水で)おおわれた」とのノアの記述と一致します。

〔聖書箇所〕創世記 7:21

7:21 こうして地の上を動いていたすべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群生するすべてのものも、またすべての人も死に絶えた。

ここでも肉なるものが、みな洪水によって滅びたことが描かれています。肉の反対は霊ですので、すなわち聖霊にあるものは洪水から免れることが暗示されているのです。

「箱舟を作る」 by エレミヤ

＜箱舟のたとえ＞

冒頭に書きましたように、箱舟は「契約の箱」に通じ、そして「契約の箱」とは神ご自身が臨在する箱です。ですので「箱舟」がたとえているもの、強調していることは神の臨在、聖霊と共に生きるかどうかということであることがわかるのです。すなわちこの箱舟のたとえが語っている教えは、終わりに日の悪霊の大洪水の日において、肉なる歩みを続けるクリスチャンは、みな悪霊の大洪水の巻き込まれ、永遠の命を失うということです。しかし聖霊と共に歩むクリスチャンは滅びを免れ、悪霊の大洪水から免れる、そのような事柄だと理解できるのです。

＜賢い花嫁のたとえ＞

このような考えは突拍子も無い考えのように見えるかもしれませんが、しかし私たちが主の啓示をもって聖書を読むなら、多くの聖書箇所が同じ事柄を強調していることを見ます。すなわち終末の日に、私たちが聖霊の臨在と共に歩むかどうか、主の再臨の日に正しく立てるかどうかの分かれ道になることが書かれているのです。たとえば有名な賢い娘、愚かな娘の箇所では、こう書かれています。

〔聖書箇所〕マタイの福音書 25:8-10

25:8 ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』

25:9 しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはどうも足りません。それよりも店に行って、自分のをお買いなさい。』

25:10 そこで、買いに行くと、その間に花嫁が来た。用意のできていた娘たちは、彼と一しょに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。

この箇所で言う「油」は、明らかに聖霊のたとえです。そして花嫁の来臨、すなわちキリストの再臨に間に合うことの出来た賢い娘と、そうでない愚かな娘との違いはたったひとつ、「油」を持っていたかどうか？すなわち「聖霊の臨在」を持っていたかどうか？というだけのことなのです。そしてこのことは、ノアの箱舟の記述、強調点と全く一致しています。「箱舟」は

たとえの意味合いとして「契約の箱」、すなわち聖霊の臨在と共に歩むクリスチャンこそ、背教の教会を席卷する悪霊の洪水から免れ、永遠の命を獲得するとの記述と一致するのです。終末の日は、以下の記述のように聖霊が教会から追い出され、その代わりに悪霊が教会を席卷する日です。

〔聖書箇所〕Ⅱテサロニケ人への手紙 2:6,7

2:6 あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。

2:7 不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。

ここで書かれている「引き止めているもの」とは、他でもない反キリストの働きを止めている聖霊のことです。しかし、「自分が取り除かれる時まで」と書かれているように、いずれ聖霊が背教の教会から除かれ、追い出される日が来ます。そのような時でも、最後まで聖霊にとどまるかどうか、私たちの永遠の生死を分ける分かれ目となることを知りましょう。

＜悪霊のリバイバルは、進んでいる＞

悪霊の大洪水と言うと、現実離れしているように聞こえるかもしれませんが、そうでもありません。現実にも今、世界の教会で起きているリバイバル現象には悪霊的なもの、おかしな霊によるものが多いからです。私たちはケネス・コーブランド、ロドニー・ハワード、ベニー・ヒンといった「リバイバルの器」が陰で、「獣のしるしをつける」などと反キリスト的なことばを語っているビデオを所有しています。

—以上—



霊の洪水:おかしな霊のリバイバル

「プロテスタントの教会やクリスチャンへの神さまからの御告げ」 E3

8月に土曜日の集会でエレミヤ書から学びをしたのですが、そのところから私たちプロテスタントの教会やクリスチャンに対しての神さまの語りかけを受けましたので、証をしたいと思います。

【参照】エレミヤ書7:1-3

7:1 主からエレミヤにあったみことばは、こうである。
7:2 「主の家の門に立ち、そこでこのことばを叫んで言え。主を礼拝するために、この門にはいるすべてのユダの人々よ。主のことばを聞け。
7:3 イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。あなたがたの行ないと、わざとを改めよ。そうすれば、わたしは、あなたがたをこの所に住ませよう。

上記みことばは旧約の当時、預言者エレミヤを通して神さまが語られたことばです。「ユダの人々よ」とありますが、「ユダ」は「南のユダ」を指し、新約の時代の「プロテスタント」のことを言われています。続いて、「主のことばを聞け」とありまして、エレミヤはユダの人々、すなわちプロテスタントのクリスチャンに対して、「あなたがたの行ないと、わざとを改めよ」と語られたのです。この時、エレミヤ牧師が以下のことをメッセージされていました。

3節は、「行ないとわざを悔い改める」というメッセージです。しかもプロテスタントのクリスチャンの問題について語っています。それは「行ない」がなっていない、ゆえに「行ないを悔い改めなさい！」というメッセージです。基本的にプロテスタントに対して、「行ないを悔い改めよ！」というのが神さまからのメッセージです。「この所」とは、クリスチャンの「約束の地」(天の御国)のことです。「奉仕」も大事ですが、しかし、もし悔い改めずにこれ以上「罪」を続けていくなれば「約束の地」(天の御国)から追い出されてしまいます。せっかく教会に行っても、「別の所」に入ってしまう。(エレミヤ牧師のおすめより)

かつての自分は失礼ながらも、「カトリック」に比べて、「プロテスタント」は、神さまの前に「随分まとも」だと思っていました。でもエレミヤ書を読むと、プロテスタントにも大いに問題があることが理解できます。もちろんローマ・カトリック教会にも問題点はあります。法皇崇拜、聖人崇拜、キリストではなくマリヤに祈る、マリヤ像を拝む、地獄は無いとか、進化論は科学的で正しいなどの教理は、

聖書の根本的な教えを覆すものなので、神さまの前に大きな問題ではありますが・・・しかし、人さまのことはさておき、集会で学んだことを契機に「プロテスタント」に対する問題点について今一度振り返ってみることにしました。

3節で言われている、「行ない」と「わざ」についてです。「行ない」と「わざ」のところはKJV訳では、“ways” (道、方向、やり方、行ない、習慣、風習、癖) & “doings” (行ない、ふるまい) という単語が使われていました。また、「改めよ」のところは、“amend” (行ないをよくする) でした。ですから、「あなたがたの行ないと、わざとを改めよ」のところは、「あなたがたの道や方向や習慣や風習や行ないやふるまいをよくする」という風に訳せます。3つの単語の共通点は、「行ない」です。先ほどのエレミヤ牧師のメッセージと同様、「行ないをよくしましょう！」つまり「行ないを悔い改めましょう！」ということが強調されていることがお分かりになると思います。

それについて、と云っては何ですが、せっかくでするので「行ないをよくする」つまり行ないを悔い改める、という点について、具体的にどんなことを神さまは要求されているのか？について見ていきたいと思っています。

【参照】ヨハネの黙示録3:14-19

3:14 また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。

3:15 「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。

3:16 このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。

3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。

3:18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精練された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現わさないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。

3:19 わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。

「プロテスタントの教会やクリスチャンへの神さまからの御告げ」 E3

「ラオデキヤ」とは、「会衆の義」（人々の正しさ）という意味です。ちなみに当時の「パリサイ人」の意味合いは、「完全というニュアンスがあり、正しい人、罪から離れているということになっている人々」です。両者はとても似通っていて、「自分たちには何も問題は無い」と思っている人々のことを言われていると思います。しかし17節でラオデキヤの教会の人々は、「**あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。**」と神さまから叱責を受けています。「**富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もない**」のところはKJV訳では、「商品が増えて金持ちになった、何も必要としない」とあります。このことば一見読むと、財産が沢山あるのでそれで十分満ち足りている、という風に思えます。もちろんそういう意味合いもあるかもしれませんが、聖書で言う「金持ち」とか「富んでいる」とは、「神さまに頼らずに、自分の力で何でもできる」という意味合いがあります。ですから「自分は何でもできるので、神さまの助けなんて必要としない、神さまの助けが無くても聖書の律法を守れるから大丈夫」という風にとれます。でも、そういう人に対して神さまは、「**実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない**」と言っています。このことばもたとえが使われています。「**貧しくて**」のところはKJV訳では、「貧困」とあります。これは恐らく、「キリストを頼る信仰が欠如している」なんてことを言われているように思います。「**盲目**」は、「**霊的に見えない**」という意味です。「**裸**」とは、18節に「**裸の恥**」とありますように、「**霊的に恥を受けている**」ということです。

ラオデキヤの教会の人々、つまりプロテスタントの教会やクリスチャンは、自分たちがそういう状態であることを分かっていない、と神さまは言われているのです。ゆえに18節、「**火で精錬された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現わさないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるよ**

うになるため、目に塗る目薬を買いなさい。」のことばが言われているのです。このことばは、19節の「**熱心になって、悔い改めなさい**」にかかっていると思います。ですから悔い改めるにあたって、「**火で精錬された金**」と「**裸の恥を現わさないために着る白い衣**」と「**目が見えるための目薬**」が必要だということが分かります。これらを求めていくことに御心があるのでしょう。

では、さいごにこの三点について簡単に説明して終わりにしたいと思います。「**火で精錬された金**」とは、「**試練を経た信仰**」のことです。正しくみことばに従ってなおかつ「**困難**」や「**艱難**」や「**試練**」を通る、しかしそれでもキリストに留まり続けていく信仰のことを言われています。「**白い衣**」とは、「**義の行ない**」つまり「**御心を行なう**」ことです。「**目薬**」とは、「**霊的に正しく見る**」ことに通じます。これらのことを「**熱心に求めよ!**」ということと言われている、もし本当に祈り求めて実践していくのなら、それはそのまま「**悔い改め**」へと通じるのでは？と思います。私自身も、このことを実践しています。日々の信仰生活の中で「**霊的に見えますように**」とか「**神さまの御心を行なうことができますように**」とか「**試練や困難に打ち勝つことができますように**」とか「**悔い改めるべき点は神さまにご指摘いただき、直ちに悔い改められますように**」なんていう風に祈り求めつつ、聖霊さまの力によっておよばずながら実践させていただいています。祈り求めなかったり、実践していかないときに、「**天の御国**」が危なくなってしまうのでは？と思うからです。

今回はプロテスタントの教会やクリスチャンへの「**悔い改め**」に関して語らせていただきました。このことを認めるかどうかは別として、しかし神さまがみことばを通して語っている警告ですので、「もしかすると、そうかもしれないなあ」なんて思われましたら、ぜひ実践してみてください。今回も大事なポイントを語ってくださった神さまに感謝します。

お知らせコーナー

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税

注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

警告の角笛出版:

tel:042-364-2327

fax:020-4623-5255

mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館

(tel:042-360-3311)

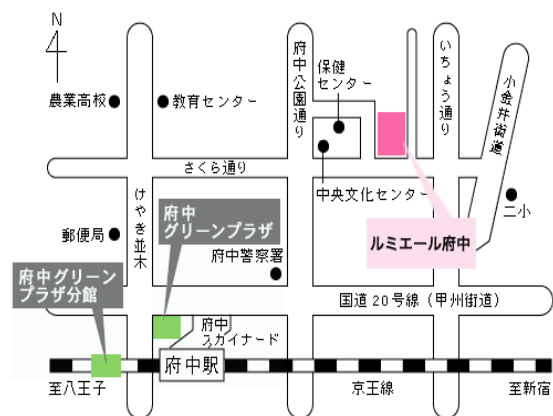
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、

「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

礼拝場所のURL:

http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html



●第38回黙示録セミナー by エレミヤ

黙示録、ダニエル書など終末に関するトピックを解説するセミナーです。

北海道から、広島から熱心なクリスチャンが参加しています。

場所:府中グリーンプラザ本館第5会議室(7F)上記地図を参照。

日時:2015年1月11日(日) 18:00-20:30

費用:入場無料、但しテキスト代 1,000 円(当日徴収)

定員:20名(先着申込順。満員次第締め切り)

主催:レムナントキリスト教会 (tel:042-364-2327)

申し込み:メールもしくはfaxで、「名前、住所」を記載の上、「セミナー参加希望」とお申し込みください。

fax:020-4623-5255,mail:truth216@nifty.com